

夢に向かって

何事も最後までやり遂げる——

菊地 悠翔 さん (県北中3年)

僕の将来の夢は、まだはっきりと決まっていませんが、スポーツ関係の職業に就きたいです。スポーツトレーナーのようなかたちで、スポーツに関わるのもいいなと思っています。

小さい頃からスポーツをすることが好きで、最近ではスポーツ観戦も好きになりました。兄の影響で、小学生の頃はソフトボールをしていたこともあって、野球観戦が特に好きです。中学校でも野球を続けたいと思っていましたが、野球部がなくなってしまったので、父が以前にプレーしていて馴染みがあるバレーボール部に入部し、部長を務めることができました。部員をまとめるのは大変でしたが、みんなが協力してくれたので助かりました。勝利を目指して、チーム一丸となってプレーすることが楽しいので、高校に入学してもバレーを続けていきたいです。

今は高校入試に向け、受験勉強を頑張っています。他には、スポーツをするうえで重要な、ケガをした時の対応や処置の仕方も自分なりに勉強しています。プレーだけでなく、そこに関係するいろいろな知識を身につけたいと思っています。将来は、誰からも頼られる存在になりたいです。与えられた仕事や、全てのことに對して最後まで投げ出さず、やり遂げられる大人になれるよう努力していきたいです。



バレーボール部に所属していた菊地悠翔さん。中学校から始めたバレーボールですが、努力を続け部長を任せられるまでに上達しました。何事も諦めず、継続して挑戦することの大切さを教わりました。



町長コラム

ま 真こらむ

【第26回】

夏 夕暮れ 盆踊り

徳江観音様の境内。テントの中にまで雨が吹き込む。でも実行委員たちは慌てない。淡々と雨への対応をしながら、焼きそば、フランクフルトを焼く。かき氷の準備をする。飲み物もしっかり冷やす。「必ず雨は上がる。4年ぶりの盆踊りは敢行するぞ」との思いが伝わってくる。

小学生が、社会人2年目の子が小太鼓を打つ。勉強を続けながら農業を継いだ大学生、この日のために帰って来た子たちが太鼓を鳴らす。撥の持ち方、打ち方、間合いを手取り足取り教わった子たちが、堂々と師匠たちと競演してる。浴衣姿の女性たちも顔を出してくれる。気持ちりがほんわかする。

小坂地区。雨で一日順延。子どもを連れて帰省した人たちがたくさんいる。小坂のじいじ、はあばは、きつと孫にデレデレ。こちらも小坂の人たちの「どうしても開催したい」との思いが伝わる温かい盆踊り。踊りの輪が途切れない。それに、羽州街道小坂宿があったり、信達三十三観音霊場の福源寺が残っていたりする土地柄なのか、お接待が上手。ほんとに和やか。

このほか、北海道で国見の桃をPRする日と重なって参加できなかったけど、大木戸の七夕まつり、商工会の夏まつりも盛り上がったと聞く。良かったなあ。

2つの盆踊りに参加して、踊り方、笛や太鼓の調子が微妙に違うことにびっくり。同じ町なのに代々伝承されてる地区の色があるんだなと感心。そして何より、少しずつ以前の暮らしが戻ってること、これがうれしい。



引 地 真